

## 実施結果報告書

1. 学校名： 兵庫県西宮市立北六甲台小学校					
2. 学習名称： 総合的な学習の時間「バスDGsを実現しよう」					
3. テーマ： さくらやまなみバスの乗客数を増やそう					
4. 実施教科：総合的な学習の時間・算数科・国語科・社会科・道徳・特別活動					
5. 関連単元：算数科「図形の拡大と縮小」社会科「わたしたちの暮らしと政治」 道徳「さくらやまなみバスへの思い」 国語科「人をひきつける表現」「聞いて考えを深めよう」 「わたしたちにできること」					
6. 実施単元数： 8					
7. 学年	第6学年	8. クラス数	3	9. 生徒数	85名
<p>10. 実施内容（教材）について</p> <p>さくらやまなみバス（図1）は、西宮市の北部地域の住民の要望で実現した西宮市の南部と北部を繋ぐバスである。現在、コロナ禍の影響もあり、さくらやまなみバスの利用者数は減少している。以前から、さくらやまなみバスは、赤字経営であり、その赤字部分は市の税金で賄われている。公共交通の手段として、車に乗れない高齢者や障害を持つ方にとっては欠かせないものである。</p> <p>本実践では、さくらやまなみバスを教材として子供と出合わせることで、市の税金が公共交通機関に使われていることを知り、市の政治に興味を持つことや、自ら社会参画する意識を持って取り組む姿が見られた。さらに、さくらやまなみバスを知ってもらう・乗ってもらうといった方法を考えると、北部地域、つまり自分たちの住む地域の魅力について感じることに繋がった。また、さくらやまなみバスの未来について、西宮市の方へ提案することを通して、よりよい社会や将来の自分たちの地域のカタチ、誰もが住みやすい社会にするにはどうすればいいかなど、持続可能な社会の在り方について考えるきっかけともなった。</p>					



図1 西宮市の北部と南部を繋ぐさくらやまなみバス



## 1 1. 学習の流れ

### 第1次【見通しをもつ】活動の計画を立てよう

☆バスの本数を増やしたい（T児：社会科の振り返りを生かして導入）

○さくらやまなみバスの乗客数が減っている現実から、自分たちができることを考えよう。自分たちに何ができるか考える。

### 第2次 さくらやまなみバスについて知ろう

○市役所の方の話から総合学習で受けるか受けないか決めよう。

- ・市役所の方から「さくらやまなみバスの乗客数を増やすのに力を貸してほしい」との依頼があり、その話を受取るか受けないか考える。

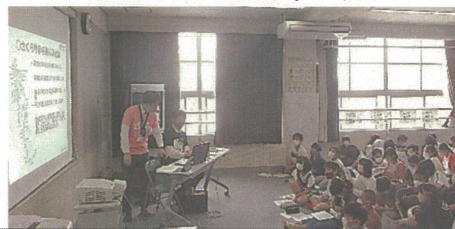


図2 西宮市役所の方からバスの話を聞く児童の様子

○市役所の方からさくらやまなみバスについて話をきき、知ろう。（図2）

#### 市役所の方より（交通政策課より）

- ・コロナの影響で減少している現実（グラフより）
- ・南北間の移動が減っていることから、収入が減少している。
- ・税金によってまかなわれている現実を知る。（赤字経営＝みんなの税金）
- ・バスに乗ること自体エコ ⇒ 5年生で学習したSDGsにつながる。
- ・バスに乗ってもらえるように西宮市の方が行っているPR方法について知る。（Tシャツなどの物販・ちらしの配布・バスの乗り方教室 等）

○阪急バスの話を聞き、さくらやまなみバスについて知ろう。

- ・バスの良いところを教えてもらう。

○さくらやまなみバスの話、総合学習で受けるか話し合おう。

- ・受ける？受けない？か聞いた情報をもとに話し合い、決定する。（受けるに決定。）

○西宮市が主催するさくらやまなみバスの乗り方教室でバスの良さや課題について調べよう。

- ・一度バスに乗ってみて、調べてみよう。

### 第3次 乗客数を増やすために活動しよう

○乗客数アップに向けて、自分たちができることを考えよう。

#### 知ってもらおう大作戦 第1弾

○南部と北部の人に、ちらし、ビラ・ポスターで知ってもらおう

- ・さくらやまなみバス沿線にある苦楽園小学校、苦楽園中学校、西宮北高校（図3）にちらしを配り、知ってもらう。
- ・阪急西宮北口駅、市役所でちらしを配り、知ってもらう。
- ・西宮市北部地域にちらしをポスティングしたり、話をきいてもらったりして、さくらやまなみバスを知ってもらう。

○京都府交通政策会議に出席し、自分たちの活動を伝えよう

- ・これまでの自分たちの活動を交通政策会議で伝える。

○さくらやまなみバス推進協議会（西宮市・地域・阪急バス・北

六甲台小学校の小学生の4者会議）に出席し、自分たちの活動を伝えよう。

- ・「さくらやまなみバスのトミカの製作」についての企画を児童がプレゼンを行い、伝えた。

（※トミカプロジェクトは、R7年度実現に向けて現在進行中。）



図3 西宮北高校でちらしを渡して伝える子供たち



## 知ってもらおう大作戦 第2弾

○さくらやまなみバスグッズを製作しよう

- ・西宮市の協力を得て、4色ボールペン、書けるクリアファイルの製品化し、PRする方法を考える。

○書けるクリアファイルのデザインを考えよう

- ・各クラスでデザイン案を考える。(バス DGs のロゴ作成)

○グッズでどうやって乗ってもらうか考えよう

- ・どうやって乗ってもらう活動までつなげるか考えよう
- ・販売か寄付か無料配布か考えよう

○クリアファイルと4色ボールペンでさくらやまなみバスをPRしよう

- ・グッズを配布する活動を通して、寄付を募り、少しでも西宮市の負担を減らし、赤字解決に向けて、活動する。
- ・阪急西宮北口駅、阪神西宮駅でグッズ配布と寄付活動を行う。
- ・有馬温泉でグッズ配布と寄付活動を行う。(図5)
- ・西宮北部の山口センターでグッズ配布と寄付活動を行う。



図4 実際に製品化されたクリアファイルのデザイン



図5 グッズでさくらやまなみバスをPRする子供たちの様子

## 第4次 自分たちの活動をふりかえろう

- ・自分の成長を実感し、次への学びに生かす。自分たちの活動の価値や手応えを感じる。

### 12. 子供の学び

授業における子供の話し合いの中で、「乗らない人はそのまま乗らなくてもいいのではないか。そういう人は、実際に困ってないから、無理やり乗ってもらう必要はないと思う。」という意見が出た。個の意見から、公共交通とは何か、税金の使い道として、どのように使うのか子供たち自身が考えるきっかけとなった。バスがなくなると、困る人が出てくる。必ずしも必要という子供(人)ばかりでないが、バスを必要としている人がいるから、地域の公共交通機関がある。自分たちは、大人になると税を納めるのである。その税の使い道について、自分たちの体験や活動から実際に考えることで、社会をより良くするための第一歩となると考えた。地域を走るさくらやまなみバスを含む公共交通の在り方について、子供たちが切実に課題解決に向かう活動を通して、たくさんの情報から、バスをはじめとする公共交通の意味や価値を知り、誰もが幸せにくらすために、どのように税金を使えばいいか、また、自分自身どのように行動したらいいか考えることのできる、そのような一人の自立した大人への子供の成長を目指して取り組んだ。

子供たちは1年間の最後に自分たちの活動を振り返りを行った。すると、子供たちは、バスの使い方や公共交通への理解、さらには、さくらやまなみバスの活動を通して人の優しさや多様性に気付く様子も見られた。さくらやまなみバスの乗客数を増やす・赤字問題を解決することを目指し、活動する中で、子供たちはさまざまなことを学び、将来の自分の生き方に繋がるような学びとなった子供もいた。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。